県立中央病院／がん・生活習慣病センター／救命救急センター　広報誌

あおやぎ

No.249
2012年4月

フィッシュ活動の様子

新年度のあいさつ ②
地域連携パス　「糖尿病」④
フィッシュ活動の取組み ⑤
診療情報管理士・看護の日のお知らせ ⑥
ドクターヘリ運航に向け ⑦
外来診療案内 ⑧

県立中央病院の理念

県民の健康と生命を支える
安心と信頼の医療

新年度のご挨拶

より良質な医療の提供を目指して

院長●小 田 隆 晴

平成24年度の年度始めにあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。皆様には、いつも当院の運営のためにご指導とご鞭撻を賜わりまして、厚く御礼を申し上げます。

山形県立中央病院は、現在では22診療科、660床の総合病院となっており、がん生活習慣病センター、救命救急センター及び総合周産期母子医療センターを付置し、平成20年からは手厚い看護体制を導入し、現在院内で働く職員は約1,200名を超える職員となっております。

昨年の3月11日に、マグニチュード9.0の未曾有の東日本大震災が発生いたしました。太平洋沿岸の被災地では大地震に津波や原発事故が重なったため、被害は甚大であり、その影響は長期に亘っております。当院は山形県の基幹災害拠点病院であるために、大震災の発生直後に、院内に災害対策本部を立ち上げるとともに山形県庁の DMAT（災害派遣医療チーム）調整本部に統括職員を派遣し、DMAT隊を要請のあった宮城県仙台市に出動させ、3月16日迄、広域医療搬送や病院支援などの救命救急活動を行ないました。3月23日以降は、山形市内の避難所における医療支援や宮城県気仙沼市への医療救護班、福島県への日赤救護班を5月まで派遣し、7月からは3ヶ月間、心のケアの応援として心療内科医を福島県相馬地区に派遣し、医療・健康相談などの支援を行なってまいりました。

当院は免震機能を有しているために、大震災による建物・設備への被害はほとんど皆無でありましたが、多くの地域が大震災直後に停電となりましたので、自家発電機能を有している当院に周辺の医療機関や県外の被災地からの患者受入要請がありました。そこでやむを得ず、患者さんのご理解とご協力を得て、早期退院をしていただくとともに、予定されていた手術は全て中止し、50床程度の空床を確保いたしました。しかし、患者受入れの要請はあるものの、空振りに終わった事例が多く、災害時おける対応の難しさを実感いたしました。大震災数日後より、隣県からヘリコプターによる救急患者の搬入が開始し、当院のヘリポートが中継基地として機能し、疾患に応じて県内の災害拠点病院、救急告示病院、人工透析医療機関や精神病院などに搬送されました。また原発事故関連の対応も迫られ、被曝スクリーニングのマニュアル化や除染テントの設営なども行ないました。今回の大震災での最も大きな課題は、ガソリン不足により薬品、診療材料や食材などの多くの物資が発生数日後に搬入出来なくなったことと、医療従事者も通勤が困難なことから、病院に泊り込む事態に発展したことです。今後は県による災害時用のガソリンの備蓄や国の石油備蓄の有効活用をお願いしているところであり、院内では薬品、食材や診療材料などの災害用備蓄の強化に取り組んでおります。また医療機関と行政機関間、医療機関間、職員間、職場と職員間の情報伝達が非常に困難となり、通常の通信がとれない事態が生じましたので、緊急連絡体制の整備が喫緊の課題であります。当院では既に職員間のメーリングシステムを構築しており、県主導で県内の基幹病院には衛星電話の設置することが決まっております。今後、私達、日本人は今回の大災害の経験から、わが国の産業構造やエネルギーのあり方について議論して再考しなければならないのではないかと思っております。

当院の近況ですが、当院が現在地である青柳の地に新築移転してから、昨年で10年が経過いたしました。生身の人間の十年といえば肉体的にはまだ子供にすぎませんが、当院のような大きな組織の10年は非常に重い歴史があります。この10年間、当院にお力添えをして下さった山形県民の皆さん、山形県、山形大学医学部、県医師会、各地区医師会、県内

各医療機関、その他数えきれない関係者の方々や病院を支えていただいたた方々に厚く御礼と感謝を申しあげます。お蔭さまで、当院は都道府県がん診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センターやエイズ治療中核拠点病院などの指定を受け、広域基幹病院としての機能がここ数年間でより堅固なものとなり、経営的基盤が強化されております。

当院の理念は「県民の健康と生命を支える安心と信頼の医療の提供する」、中期的に目指す姿は「医療の質の向上と経営基盤強化が調和した高度急性期病院を実現する」となっております。

本年度に取り組む大きな課題は三つあります。

第一の課題は、この1月1日に稼働した新たな医療情報システムを円滑に活用することであります。それを活用することより、多くの診療情報や経営情報等の各種データの共有化と可視化がされれば、職員の業務効率の向上が図られ、柔軟な人員配置やモラール向上につながり、勤務環境の改善にもなります。また患者さんにも、より安全で良質な医療の提供が可能となります。今のところ大きなトラブルもなく順調に経過していますが、まだまだ不慣れで、患者さんにもご迷惑をお掛けしていると思いますが、これから更に細部をつめて、医療人にも患者さんにも利便性のあるシステムを目指して頑張るつもりですので、あとしばらくご理解とご協力をお願いしたいと思います。

第二の課題は、病院医療機能評価の更新審査がこの10月にあることです。これは、病院の質と医療の中身を学術的で中立的かつ公正な第三者の機関である日本医療機能評価機構から評価していただくものです。10月に審査に向かって、当院の医療機能と質がさらに向上するように、そして患者さんにより安全な医療を提供できるように職員一丸となって、改めて手綱を引き締める所存でございますので、県民の皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

第三の課題は、ドクターヘリ（救急医療用ヘリコプター）の導入にあたる基地病院としての整備であります。ドクターヘリは『空飛ぶ救命・救急室』とも呼ばれ、重篤な疾患や災害等で生命の危機が切迫している患者さんがいる現場に救急医療に訓練された医師と看護師が搭乗し、現場に駆けつけ、緊急治療を施すために運行するヘリコプターのことです。需要見込みとしては、山形県で年間300件前後の出動になると考えられており、当院のヘリポートからは山形県の殆どが30分以内に到着できることになっております。昨年の大震災の際は、全国のドクターヘリが被災県内における患者搬送だけでなく、隣県への緊急搬送などで活躍し、改めてドクターヘリの有用性が再認識されてきております。未導入の本県でも昨年度に導入が決定し、当院が基地病院となり、この4月から整備工事、11月から就航が始まる予定です。ヘリポートと格納庫の整備工事は現在の駐車場の一角に計画されておりますので、工事にあたりましては、患者さんやそのご家族の皆さんにご不便をお掛けすると思いますが、ご理解を賜りますようにお願いいたします。

現在の医療界は多くの流動的な不安定要因があります。医師、看護師等の医療人確保や医療費の見通しは全く不透明であります。今後は少子高齢化や人口減少により患者数の減少が予測され、当院の施設や高度医療機器も老朽化しており、計画的に更新をしなければなりません。昨年度は高度治療の可能な放射線治療機器を導入し、循環器撮影装置や体外衝撃波結石破砕装置の更新やガンマナイフの線源の交換をいたしました。

今後、当院が県民に信頼される基幹病院として生き残るためには、今まで以上に『高度医療に強い』、『大災害に強い』、『経営に強い』病院を職員一丸となって目指さねばならないと考えております。その使命を果たすにあたっては、職員に医療人としての立派なマナーを身につけて、患者さんに温かくて優しい医療を提供し、「笑顔と挨拶と愛が絶えることがない病院」という文化や組織風土を根付かせることだと思っており、そのことは機会ある毎に職員に指導しておりますので、今後とも宜しくご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

シリーズ 地域連携パス

「糖尿病」

糖尿病内分泌代謝内科 ● 間中　英夫

糖尿病地域連携パスは、糖尿病患者会である日本糖尿病協会で作成した糖尿病連携手帳の解説から引用すると、糖尿病連携地域連携パスとは「かかりつけ医」と「病院」が連携し、質の高い糖尿病診療を行う仕組みのことです。糖尿病地域連携パスは先行している大腿骨骨折地域連携パスや脳卒中地域連携パスと少し事情が異なります。前述の2つのパスは主に病院間の入院患者連携を対象にしていますが、糖尿病連携パスは入院患者と外来患者を対象にした連携であり、また診療報酬上何も保障されていません。通常行われている診療連携の紹介・逆紹介との相違が分かり難いと思われます。他県の連携パスをみても県医師会レベルで行っているところもありますが、多くは一つの病院が核となり、多数の「かかりつけ医」である診療所との間の連携パスとなります。理由は、①診療所に通院中の患者が圧倒的に多い、②糖尿病専門医は極めて少なく限られた病院にしかいないので病院で無制限に受け入れられない、③糖尿病は全身疾患なので、腎臓内科、循環器内科、眼科との連携が必要であることなどから、病院・診療所間の連携を行っています。

「かかりつけ医」は糖尿病と初めて診断された患者や治療を受けても高血糖が改善されない患者を病院に紹介します。病院では入院あるいは外来で糖尿病教育・合併症検査・治療方針を決めて「かかりつけ医」に紹介します。「かかりつけ医」に紹介された患者は以後、「かかりつけ医」で診てもらうことになりますが、半年あるいは1年毎に元の病院で栄養指導や合併症検査を受け、必要ならば腎臓内科、循環器内科、眼科も受診してもらいます。「かかりつけ医」での治療記録は糖尿病連携手帳等に記載し、経過が分かるようにする必要があります。さらに糖尿病地域連携パスでは「かかりつけ歯科医」を決めておくことも推奨されています。

山形での現況では、山形市医師会が糖尿病地域連携パスを開始して数年が経過しました。山形県立中央病院では前述のように紹介された患者を紹介元あるいは近くの診療所の先生に逆紹介していますが、糖尿病地域連携パスでいうところの半年や1年毎の定期的な中央病院受診は成立していません。外来での診療枠の少なさが足枷になっているので、再度高血糖になった場合の再入院でもないと受け入れ困難だからです。いつになるかわかりませんが、何とか改善したいと思っております。

「フィッシュ！」が職場風土を変える

看護部●有井　津也子

生まれはアメリカ・シアトル

フィッシュ！とは職場の活性化を目的とした考え方の一つです。産まれはイチロー選手のいるアメリカ・シアトル、バイクプレイス魚（フィッシュ）市場です。魚投げのパフォーマンスなどでお客様を魅了し、従業員の士気と定着率を高め、職場の活性化と同市場の観光名所化に成功したのです。

経営哲学として理論化！

でも「魚投げ！楽しかったあ～！」で終わらないのがアメリカ！
この光景に感銘を受けた経営コンサルタントが、同市場での現象をビデオに撮り分析し、理論化したのです。そのビデオはマクドナルド・BMW・ノキア・ナビスコ・米国陸軍など約4000社の社員研修テキストとして採用されました。一般に成人は目覚めている時間の75％を仕事に関連した活動に費やしています。たった一度の自分の人生です、それを楽しみ、それによってエネルギーを得たいと思いませんか？「日々の仕事で自分自身を高める。」これがフィッシュ！の考え方です。

職場を活性化させる4つのポイント

【態度を選ぶ】
仕事は選べなくても、どのように仕事するかは自分で選べます。忙しい職場環境でも、イライラして1日を過ごすか、笑顔で過ごすかは、自分次第。どちらを選びますか？

【遊ぶ】
遊びというとギャンブルを連想し、職場には不向きと思われるかもしれませんが、心のゆとりや発想の転換ということです。四角四面に考え込むのをやめ、ふと息を抜いたり、全く違うことを始めた時に、良いアイディアが浮かんだりしませんか。

【人を喜ばせる】
日本には謙譲の美徳、以心伝心という美しい文化があります。しかし、職場では言葉に出さなければ伝わらないことも多いのです。特に相手を褒める・認めるを言葉で伝え、褒め上手・褒められ上手でお互いに喜びを分かち合いましょう。

【注意を向ける】
相手の話に耳を傾け、相手が自分を必要としている瞬間を見逃さないようにすることは、人間関係を良好に保つ上で大切なことです。相手と向き合う時間の長さではなく、短時間でも100％相手のために自分の時間を使うことが「おもてなし」の心です。

フィッシュ！で職場を明るく元気に

フィッシュ！を日本に広めたのは、慈恵医科大学付属病院です。
系列の病院で大きな医療事故が起き、「慈恵」という名前だけで世間から非難され、職員は暗く沈む一方でした。何とかしたいと始めたのが「フィッシュ！」です。なんと1年間で職場の活性化と看護職員の離職率低下に成功しました。フィッシュは、ストレスマネジメントや良好な人間関係構築にも効果を発揮し、全国に広まっていきました。

私たち看護部では、各部署での取り組みを1年に1回発表しています。転入者へのウェルカムカード・お誕生日メッセージカード、あなたのいいとこ知っているカード、応援ありがとうカード、季節の飾りつけ、月間MVP賞（あなたのここがすごい）、ちょこっとプレゼント（嫌なことがあった時、すぐ消せる消しゴムなど）日本語で最も美しい言葉のひとつ「ありがとう」のシャワーを存分に浴びて、人と人との関係を大切に考え、生き生きとした職場で明日も元気に笑顔で働きましょう。

診療情報管理士とはどんなもの？

医事相談課　診療情報管理士 ● 小野・押切

診療情報管理士という職業については初めて耳にされた方も多いのではないでしょうか？以前は診療録管理士という名称でしたが、1996年4月から現在の名称に変更されました。2011年5月現在、全国に23,576名の診療情報管理士がおり、全国各地の医療機関で活躍しています。診療情報管理士は、文字どおり大まかには「診療情報を管理する人」ということになりますが、ここでは具体的にどんな仕事をしているのか紹介したいと思います。

診療情報管理士の主な仕事としては①患者さんの治療内容が記録された診療録や検査記録などをファイルした診療記録を患者さん毎に適切に管理すること、②病名や医療行為など様々な項目をコード化し分類した情報を管理蓄積すること、③蓄積されたデータから必要な情報を抽出・加工・分析し医療の場に提供すること、などがあげられます。

また近年では、病名と診療行為を元に入院費を請求するDPC制度が始まり、正しい病名の選択が適正な医療費の請求につながるようになりました。県民のみなさんが適正な医療費で安心して医療を受けられるよう、診療情報管理士の知識を活かして正しい病名の選択が行われるよう事務的な面から医師をサポートすることも大切な使命となっています。

診療記録から集められた様々な情報は、病気や治療方法の研究、地域医療と全国との比較、医療の安全管理や質の向上など、さまざまな場面で活用されています。このほかにも個人情報保護の重要性やカルテ開示の法制化、電子カルテの導入などにより、これまで以上に医療情報を適切に扱うことが必要になり診療情報管理士の仕事もより専門的になってきました。そのため日々進歩していく医療技術やIT技術について、常に勉強し新しい知識を吸収することが重要となっています。

当院では昨年4月より2名の診療情報管理士が加わり、現在5名の診療情報管理士が医事相談課で業務にあたっております。これからも病院内にあるたくさんの診療情報を適切に管理し、県民のみなさんが適正な医療を受けられるよう努めていきたいと考えております。

「看護の日」のお知らせ

人工透析室看護師長 ● 相 馬 由 美

看護部では、「看護の心」をお伝えし、看護に対する関心と理解を深めていただくことを目的に、5月12日、近代看護を築いたナイチンゲール生誕の日・看護の日に合わせて毎年活動をさせて戴いています。今年は5月10日に実施する事になりました。昨年起こった東日本大震災の時に、誰もが家族・友人・職場・地域の方々との絆の大切さを感じたと思います。そこで、テーマを「きずな」～隣の人の命を守ろう～としました。当院には、2つのDMATチームがあります（DMATとは、災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チームをいう）その活動の様子の紹介、一次救命処置の方法の講習会なども企画しています。このようなイベントを通して、24時間、身体だけではなく、心まで見守り、支える看護職の仕事へのご理解を深めて戴き、さらに、隣にいる大切な人の命を守るための知識をぜひこの機会に習得していただきたいと思います。ご近所お誘い合わせの上ぜひお越し下さい。

日　時：平成24年5月10日（木）10時～14時
場　所：中央病院２階講堂
テーマ：「きずな」

体験ブース　「突然目の前で誰かが倒れたらどうしますか?」～救命方法を一緒にやってみましょう!～

展示ブース　「DMATその活動を知っていますか?」

測定ブース　「体脂肪・骨密度・血圧知ってますか?」さあ!測ってみましょう

昨年の様子

副院長が応援にきて下さいました

ドクターヘリ運航に向け

今冬、待望のドクターヘリが運航開始する。

県内の救急医療体制は着実に整備されてきているが、救急隊出動から医療機関収容まで30分以上要した割合は44.2%と高く救急搬送体制の充実強化が課題であった。『高度救急医療搬送体制検討委員会』を設置し、本県における高度救急医療搬送体制のあり方について検討した。同委員会において『ドクターヘリについて高い有用性が認められるため、本県においては導入することが基本的に望ましい。導入に向け関係者の協力を得ながら様々な課題解決に取り組んでいく必要がある。』と結論づけた。

本県は、山間部や過疎地域が多く抱えているため、30分以内でほぼ県全域をカバーし専門救急医による治療開始が行えるドクターヘリを導入することにより、救急医療搬送体制の充実を図ることができる。

ドクターヘリの場所は、現在ヘリポートを有している4つの病院から選定され、最終的には30分以内でほぼ県全域をカバーできる「山形県立中央病院」に決定した。

現在の進捗状況は、ヘリポート及び格納庫等の実施設計中である。また、医師看護師が県外のドクターヘリ運航病院で研修をしている。

ドクターヘリは全国に27機配備されている。23道府県ですでに導入され、平成25年度までに導入予定は11県、6都県は共同運航又は防災ヘリで対応している。東日本大震災において、18機のドクターヘリが医療活動に従事し活躍した。ドクターヘリは今後の救急医療の柱になる事業になってきている。

ドクターヘリの基本的な行動パターン

❶救急現場から119番通報
❷救急車が出動し、救急現場へ到着
❸救急隊が基地病院にドクターヘリ出動を要請
❹救急車で患者さんをランデブーポイントまで搬送
❺ドクターヘリ到着後、患者さんを各地域の拠点病院へ搬送

※ランデブーポイント：ヘリポート以外でヘリコプターが離着陸できる地点

そのほかに2つの事業が同時進行

医師公舎新築工事

医師が勤務先を決定する要因の1つとして宿舎の充実がある。優秀な研修医が当院を希望してもらえるように医師公舎の整備を図る。

会議研修棟建設

現在、当直室及び会議室が不足しているため、業務に支障が出ている現状がある。問題を解消するために会議研修棟の整備を図る。

工事の案内

事　業　名	期　　間
ドクターヘリ場外離着陸場整備事業	平成24年5月～平成24年10月
医師公舎新築工事	平成24年6月～平成25年1月
会議研修棟建設	平成24年7月～平成25年1月

（詳細は後日連絡します。）

中央病院では3つの建設工事が施工され、工事期間中、数十台の駐車場スペースが制約されます。
また、工事車両が頻繁に往来することになります。
駐車場ご利用の皆様には、大変ご不便をお掛けしますが、よろしくご協力くださいますようお願い申し上げます。

外来診療案内

この病院で初めて診察を受ける時は

総合受付（初来院受付）に**診察申込書**と**問診票**及び**紹介状**（紹介状をお持ちの方）を提出のうえ、受付してください。なお、総合窓口受付開始時間までは所定の**受付ボックス**に入れてください。

再来の時は

予約の有無に関わらず、**再来受付機**で受付してください。受付票と診察券を受け取り、各科外来ブロック等にお越しください。（再来受付機は、午前７時30分からご利用になれます。）

各診療科を初めて受診する時は

総合受付（再診受付）に**所定の問診票**を提出のうえ、受付してください。

診察券をお持ちでない方は

総合案内又は、再診受付に申し出てください。診察券は**全科共通**で、**永久に使用**しますので大切に保管してください。

保険証は・・・

総合受付（再診受付）又は、各科ブロック受付に**必ずご提示**ください。**初来院の方は保険証のご提示がないと全額自己負担になります。**

①月が変わって初めて診察を受ける時
②保険証が変わった時
③住所・電話番号が変わった時

初来院受付時間

午前8:00～11:30

■ただし、眼科の水・木曜日の受付は、11:00 まで

ブロック	診療科	診療曜日
A	内科	月火水木金
	循環器内科	月火水木金
B	整形外科	月火水木金
	眼科	月火水木金
	歯科口腔外科	月火水木金
C	脳神経外科	月火水木金
	泌尿器科	月火水木金
	心療内科	月火水木金
	神経内科	月火水木金
D	産婦人科	月火水木金
	耳鼻咽喉科	月火水木金
E	小児科	月火水木金
	皮膚科	当分の間休診
	形成外科	※火水木※
F	外科	月火水木金
	呼吸器外科	※火水※金
	心臓血管外科	※火水※金
放射線科	放射線科	月※水木金

※は休診日です。受付しておりませんのでご注意ください。

外来診察に係る再来患者さんの電話予約及び予約変更については、医療相談支援センターで受け付けております。

TEL 023(685)2620（13時～16時）

「かかりつけの先生」からのFAX予約も受け付けております。待ち時間も少なくてすみますので「かかりつけの先生」にご相談ください。

FAX 023(685)2606（平日 8時30分～18時 土曜 8時30分～14時30分）

山形県立中央病院● INFORMATION ●お知らせ

人間ドック料金のお知らせ（平成24年4月1日～）

年に1度は人間ドックで、生活習慣の見直しと健康チェック・アドバイスを受けてみませんか?

コース	内容	実施日	料金（税込）
1日	胃X線検査ほか	月・金	男性 40,380円 女性 40,970円
2日Aコース	胃、大腸(S状結腸)内視鏡検査ほか	月～火、水～木	男性 90,370円 女性 96,860円
2日Bコース	胃X線検査、糖負荷検査ほか	水～木	男性 74,430円 女性 80,920円
3日	胃、大腸(全結腸)内視鏡検査ほか	水～金	男性 138,750円 女性 140,230円

●オプション検査（オプションのみの受診はできません）

◆頭部MRI・頭頸部MRA検査(2、3日ドック受診者) 20,690円※
◆胸部CT検査 16,170円※　◆歯科検診(2日ドック受診者) 7,060円
◆骨塩定量検査 3,780円　◆喀痰細胞診 男性3,570円・女性2,000円
◆マンモグラフィ(1日ドック女性) 5,900円
◆ヘリコバクター・ピロリ抗体検査 740円

※頭部MRI・頭頸部MRA検査及び胸部CT検査は1日1人の定員です。
頭部MRI・頭頸部MRA検査と胸部CT検査をあわせて行った場合、頭部MRI・頭頸部MRA検査の料金は、12,430円になります。

ご予約・お問い合わせは…
病院3階 がん・生活習慣病センター事務室
電話／023(685)2616 FAX／023(685)2605
※人間ドックは完全予約制です。お早めにご予約ください。

発　行 山形県立中央病院　〒990-2292 山形市大字青柳1800番地
編集部会長 福井昭男　編集 総務課庶務係 TEL 023(685)2626 内線3112
山形県立中央病院ホームページアドレス http://www.ypch.gr.jp/